

Continental AG

Micro Focus® UCMDB がソフトウェアとインフラストラクチャコンポーネントの透明性を提供。

概要

Continental は、新しいビジネスチャンスへの対応スピードを上げるため、部門間コラボレーションの促進、情報の共有、ベストプラクティスプロセスのロールアウトを必要としていました。Universal CMDB ソフトウェアにより、会社全体のデータを単一のソースに集約し、透明性と一貫性を確保することができました。

課題

Continental はドイツの大手メーカーです。49 カ国で事業を展開する同社は 178,000 名の従業員を擁し、2013 年には 333 億ユーロの売上を計上しました。主力事業は自動車部品とゴム製品の 2 分野です。ゴム製品部門は世界中のメーカーに Continental ブランドの高品質タイヤを提供していることから、最も名が知られていると言ってよいでしょう。

「事業部の人たちが私たちのところにやってきて、IT をもっと活用したいと言ってきました。こんなことは初めてです。」

STEPHAN DIETZ 氏

Service Asset and Configuration Management
Continental

う。しかし、ビジネスチャンスが一番大きいのは、売上高 200 億ユーロの自動車部品部門です。こちらは、自動車業界の「安全」「環境」「情報」「低価格」という 4 つの大きなトレンドを活かす絶好のポジションにあるためです。

チャンスをつかむため、Continental は一貫性のあるアジャイルな IT インフラストラクチャを必要としていました。また、新しいビジネスチャンスへの対応スピードを上げるには、部門間コラボレーションの促進、情報の共有、ベストプラクティスプロセスのロールアウトも必要でした。

Continental の IT インフラストラクチャは 2 層で構成されています。各部門内に IT チームがあり、日常的な IT 業務に従事しています。同時に、組織全体に対応する全社的な IT チームも設置されています。この部門は 350 名強の従業員で構成されており、その中には品質とプロセスに特化したスペシャリストチームがあります。

「サービス管理を担当するグループには 30 名の従業員がおり、うち 6 名がプロセスオーナーです。」と Continental のプロセスオーナーサービス資産および設定管理を担う Stephan Dietz 氏は言います。「しかし、世界中でベストプラクティスを確立するのは大きな課題です。文化的な相違点が多い上に、すべてのロケーションへ実際に足を運ぶの



Continental

概要

業界

自動車

所在地

ハノーバー (ドイツ)

課題

あらゆる ITSM プロセスのベースとなる IT インフラストラクチャとそのサービス依存関係のインサイトを提供するために、グローバル IT 全体の設定管理プロジェクトを実施する。

製品とサービス

環境設定管理システム

成果

- + IT 全体において信頼性の高いデータを 1 つのソースに集約し、サービス設計とサービスモデリングのための情報リポジトリを提供
- + サービス資産 (ハードウェアおよびソフトウェア) と、提供されるサービスとサービス資産の関係性について視認性と透明性が向上

「リスク評価が格段にやりやすくなりました。
ある変化が会社全体にどのような影響を及ぼすのか、
特定のビジネスサービスがどのような影響を受けるのか、
明確なイメージを掴むことができるようになりました。
Micro Focus Universal CMDB は、インシデントや変化に
対応するのに大いに役立っています。」

STEPHAN DIETZ氏

Process Owner Service Asset and Configuration Management
Continental

お問い合わせ先：
www.microfocus.com

は難しい場合があります。」同社はITデリバリーを一新し、ITにサービス指向のアプローチを導入したいと考えていました。

「サービスの文化を育てているところですが、」とディーツ氏は続けます。「まだ十分ではありません。経営陣は、コラボレーションとサプライヤー管理のメリットを得るうえで、サービスのアプローチが必要であることを理解しています。たとえば、アウトソーシングは、サービス指向の考え方を取り入れなければうまく機能しません。」

このタスクを達成するために、Dietz氏とチームメンバーは2011年の終わり頃、設定管理プロセスへの取り組みを始めました。目的は、ソフトウェアおよびインフラストラクチャのコンポーネント全体と、それぞれの関連性および依存関係を完全に透明化することでした。

ソリューション

「Micro Focus と緊密に連携していくことを決めたのはかなり前のことです。」とDietz氏は語ります。「すでにMicro Focus Service Manager と Asset Manager を使用しているので、設定管理ソリューションとしてUniversal CMDBが候補に挙がるのは必然でした。期待どおりに、すべてのソリューションが緊密に連携していました。」

Continentalは実装作業の監督役として社内マネージャーを1名任命しました。しかし、Dietz氏によると、要となる役割を果たしたのはMicro Focus パートナーのMaternaでした。「Maternaは当社のことをよく理解しています。Micro Focusは当社との関係を通じて、企業文化や、担当チームと協力して成果を出す方法を知っています。」

まず設定管理プロジェクトの焦点となったのは、ビジネスに欠かせない「メッセージング」、「CEOS(注文プロセス)」、「コア(タイヤの研究開発アプリケーション)」の3種類のアプリケーションでした。

「3種類それぞれに試作アプリケーションを開発し、そのメリットを現場に示したうえで海外を含めた全社にロールアウトしました。」とDietz氏。「私たちの優先事項は、完全さではなくユーザビリティでした。」

成果

Universal CMDBのロールアウトは2013年半ばに完了しました。「すべてのデータが1つの統合ソースに集約されたのは素晴らしいことです。」とDietz氏は言います。「データはITのハブです。今では、すべての情報が連動しています。」

次のフェーズでは、データからさらに意味のある情報を取り出すことを目標としてい

ます。「それこそが設定管理の最も重要な機能です。以前は、手作業でモデリングを行っていましたが、Micro Focus Universal CMDBでは、その作業を自動化できるのです。自動化すれば、オブジェクトの関連づけに関する明確なガイドラインの作成、透明化、ベストプラクティスの共有が可能になります。」とDietz氏は述べます。

Continentalが首尾一貫としたソフトウェア戦略を打ち立て、Micro Focusを使ったデータモデリングを行う際にもUniversal CMDBは役立っています。

「リスク評価が格段にやりやすくなりました。」とDietz氏。「どのような変化であれ、それが会社全体にどのような影響を及ぼすのか、特定のツールがどのような反応を示すか、ビジネスサービスがどのような影響を受けるのか、明確なイメージを掴むことができるようになりました。Universal CMDBは、インシデントや変化に対応するのに大いに役立っています。」

その結果、会社全体でITに関する関心が高まりました。「事業部の人たちが私たちのところにやってきて、ITをもっと活用したいと言ってきました。こんなことは初めてです。」とDietz氏は話します。「彼らは、ITインフラストラクチャをサービスとして提供してほしいと思うようになったのです。」

マイクロフォーカスエンタープライズ株式会社
jp-info-enterprise@microfocus.com
www.microfocus-enterprise.co.jp